



平成22年度
事業計画

学校法人 専修大学

学校法人専修大学 平成22年度事業計画 目次

事業計画の策定にあたり		1
平成22年度 事業計画		
I 教育・研究力の強化		
【専修大学】	1. 組織に関すること	(1) 新学部・新学科の開設 (2) 大学院商学研究科会計学専攻の開設
	2. カリキュラムに関すること	(1) 経済学部のカリキュラム改正 (2) 商学部のカリキュラム改正 (3) 教養科目等の半期化
	3. 教育改革に関すること	(1) 導入教育の強化 (2) 教育効果測定研究プロジェクトの推進 (3) 修学意欲の向上に向けた相談・指導等の実施 (4) 薬物乱用防止及び飲酒の危険性に関する授業の実施 (5) 「大学院教育振興施策要綱」等を指針とした大学院教育の改革推進 (6) 法科大学院教育の質向上に向けた改善の推進
	4. 研究に関すること	(1) 研究プロジェクトの推進 (2) 「向井信夫文庫」の設置
	5. 国際交流に関すること	中期留学プログラムの新規コース設置準備
【石巻専修大学】	1. 教育改革に関すること	(1) 初年次教育の充実 (2) 教育の質保証に向けた取り組み (3) 経営学部コースの充実
	2. 研究に関すること	(1) 研究センターの事業推進 (2) 公的研究費の適正使用の徹底
	3. 国際交流に関すること	
【専修大学北海道短期大学】	1. 教育改革及び研究に関すること	(1) 専大ファームの充実について (2) 教育用コンピュータシステムの利用促進
II 教育研究環境の整備		
【専修大学】	1. 教育研究用コンピュータシステムの更新	
	2. Web履修登録システム及び学内統合認証システムの更新	
	3. 国際研修館建替への検討	
	4. キャンパス将来構想の検討	
【石巻専修大学】	1. 教育研究用コンピュータシステムの更新	
III 学生支援の充実		
【専修大学】	1. 学生相談室の充実	
	2. 資格取得支援講座の強化	
	3. 就職支援の強化	
【石巻専修大学】	1. 自宅通学支援バスの充実強化	
	2. 会計専門職養成の強化	
	3. 就職活動支援の強化	
IV 社会地域貢献の推進		
【専修大学】	1. KSコミュニティ・ビジネス・アカデミーの実施	
	2. 地方自治体との連携促進	(1) KSパートナーシップ・プログラムや多摩区・3大学連携協議会の推進 (2) 「開かれた大学」の推進
	3. 高大連携プログラムの充実	
	4. SI Librettoの刊行	
	5. 公開講座の充実	
	6. 専修大学カップの開催	
	7. ワンデーチームメイトの強化	
【石巻専修大学】	1. 産学連携の推進	
	2. 高大連携の強化	
【専修大学北海道短期大学】	1. 専修大学ハスカッププロジェクトの充実	
	2. 市民公開講座の実施	
	3. 高大連携の強化	
V 経営基盤の強化		
【学校法人】	1. 教育研究振興協力資金の募集	
	2. 外部資金の確保	
	3. 事務組織の機能強化	
【三大学】	1. 学生募集力の強化	



事業計画の策定にあたり

学校法人専修大学は、本学が掲げる21世紀ビジョン「社会知性の開発」を達成するため、平成22年度に取り組む事業計画を策定しましたので、ご報告いたします。

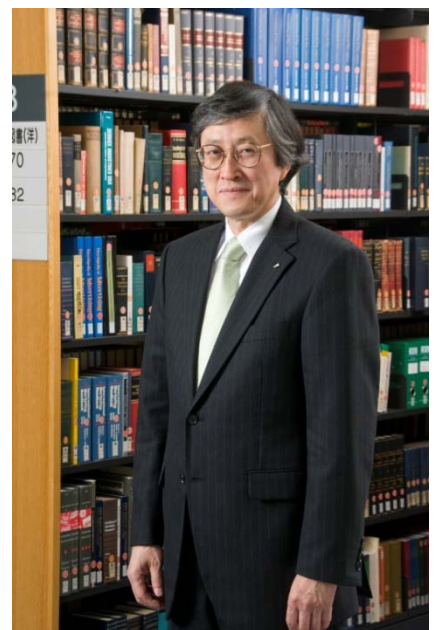
本学は、平成21年9月に創立130年を迎えました。平成22年度事業計画は、従前に増して教育・研究力の開発促進、教育研究環境の整備に重点を置き、策定しています。

専修大学は、教育組織に係る改革として、平成22年（2010年）4月に、文学部を再編して7学科体制とし、新学部として「人間科学部」を誕生させます。これにより、人文科学分野における学問領域の拡充を図ります。大学院においては、商学研究科に会計学専攻を開設し、既存の商学専攻と併せ、2専攻の体制とします。教育内容の改善としては、教養科目等について半期化を図り、教育効果や学生の満足度を高めていきます。教育の質を裏付ける研究力の強化にあたっては、稼働している研究プロジェクトへの支援強化は勿論のこと、新たな採択に向けた情報収集、態勢づくり等支援体制を増強させていきます。施設設備の整備については、教育研究面において、教育研究用コンピュータシステム、Web履修登録システム、及び学内統合認証システムの刷新を図り、提供サービスの高度化に努めます。また、就学面においても、学生相談室の機能・環境の両面を強化させます。さらに、積極的な「知の発信」に取り組むべく、公開講座やシンポジウム等を充実させ、「SI Libretto」シリーズの刊行にも注力していきます。教育・研究活動の拠点であるキャンパスについては、国際研修館の建替えに係る検討といった喫緊の課題への対応は勿論のこと、神田及び生田の総合的なキャンパス構想についても分析、検証を重ね、キャンパス整備のあるべき方向性を打ち出していきます。

石巻専修大学は、平成21年度に全学科でコース制を導入するとともに、研究の高度化と地域貢献の推進に資する「共創研究センター」を設置しました。今年度は、初年次教育科目「フレッシュマンセミナー」の内容充実や自宅通学支援バスの路線拡大を図ることで、学生の目線に立った改革を一層推進させます。また、共創研究センターと大学開放センターの連携による地域人材育成事業等を積極展開させ、地域に根差した大学づくりを深化させていきます。

専修大学北海道短期大学は、今年度、平成19年に決定した将来構想方針（3ヵ年計画）の最終年にあたることから、改革推進について、各位の奮闘に期待するところです。

今日の大学においては、18歳人口の減少によって大学間競争が激化し、一方で、大学進学率の上昇により、教育の質を保証するシステムの構築が強く求められています。大学の存在意義が厳しく問われる待ったなしの大学改革の中にあって、学校法人専修大学は、来るべき創立150年に向け、強固な財政基盤を構築するとともに、「社会知性の開発」の達成するため、法人と教学が一致協力し、今年度も骨太で着実な大学改革を推進して参ります。



学校法人専修大学理事長

日高義博



I 教育・研究力の強化

【専修大学】

1. 組織に関すること

(1) 新学部・新学科の開設

専修大学は、平成22年4月1日に、心理学科と社会学科で構成される「人間科学部」を新設する。また、文学部の日本語日本文学科、人文学科（社会学専攻を除く）の各専攻を学科に改組し、加えて、人文・ジャーナリズム学科を開設する。これにより、専修大学の設置学部は7学部となり、文学部は7学科構成となる。

(2) 大学院商学研究科会計学専攻の開設

専修大学は、平成22年4月1日、大学院商学研究科に会計学専攻（修士・博士後期課程）を開設する。これにより、大学院商学研究科は商学専攻と会計学専攻の2専攻制となる。

2. カリキュラムに関すること

(1) 経済学部のカリキュラム改正

専修大学経済学部は、平成22年度入学者より、経済学科及び国際経済学科のカリキュラム改正を行う。今回の改正は、ゼミナール等一部の科目を除いた専門科目を半期2単位にすることで、 Semester 化を推進させ、さらに、経済学科に「経済数学基礎」、国際経済学科に「国際経済とデータ分析基礎、応用」を1年次に配当することで、数学基礎力の向上を図る等、教育内容の改善と向上を目指す。

(2) 商学部のカリキュラム改正

専修大学商学部は、平成22年度入学者よりマーケティング学科及び会計学科のカリキュラム改正を行う。今回のカリキュラム改正では、学生の職業選択に対応する既存のコース制や履修モデル制を踏襲しつつ、マーケティング学科では、専門導入基礎教育を充実させ、ビジネス倫理を教授する科目等を新設、また会計学科では、会計基準の国際的統一化を視野に入れた系統的な財務会計の教育プログラムを導入する。

(3) 教養科目等の半期化

専修大学は、平成22年度入学者より、教養教育科目等の半期化を行う。今回の改正では、「教養ゼミナール」及び「総合科目(半期4単位)」を除く全ての科目を半期2単位とし、各学部の Semester 化に対応する。これにより、授業科目の選択の幅が広がり、前・後期における学部専門科目との履修組み合わせが容易となる。

3. 教育改革に関すること

(1) 導入教育の強化

専修大学は、新入生に対する導入教育の効果を高めるため、『知のツールボックス』（改訂版・ワークブック付）を新入生全員に配付する。また、教育開発支援委員会と出版企画委員会主催の意見交換会等を通じて、本書の効果的な活用方法を検討していく。

(2) 教育効果測定研究プロジェクトの推進

専修大学は、入学時の基礎学力と入学後の学業成績との相関を分析し、教育改革へ活用することを目的とする「教育効果測定研究プロジェクト」の研究を推進する。平成22年度は、プロジェクトメンバーによる分析を進め、また、新入生対象の「基礎学力テスト」を継続実施する。

(3) 修学意欲の向上に向けた相談・指導等の実施

専修大学は、成績不良や登校不良が懸念される学生を早期に把握し、学内諸機関の連携により、適切な相談、指導及び支援を行い、修学意欲の喚起を図る。また、これらの状況把握と分析を行い、学内で情報共有するとともに、保証人への積極的な情報提供に努める。

(4) 薬物乱用防止及び飲酒の危険性に関する授業の実施

専修大学は、学生部による薬物乱用防止の啓発と併せて、一部（昼間部）全学必修科目である「保健体育理論」の中で、薬物・アルコール被害についての健康教育を実施する。

(5) 「大学院教育振興施策要綱」等を指針とした大学院教育の改革推進

専修大学大学院は、教育の改革に向けて、平成21年度は授業評価の実施や留学生の日本語能力に関する実態調査、シラバスシステム導入等の諸施策を進めてきた。平成22年度においても、引き続き「大学院教育振興施策要綱」等を指針とした教育改革を推進する。

(6) 法科大学院教育の質向上に向けた改善の推進

専修大学法科大学院は、教育の質向上のため、①入学者の質と多様性の確保、②修了者の質の保証、③教育体制の充実、④質を重視した評価システムの構築等を柱とした改善を推進する。また、平成23年度からの実施に向け、進級制度の設定やカリキュラムの強化等について検討を進める。

4. 研究に関すること

(1) 研究プロジェクトの推進

専修大学社会知性開発研究センターは、平成21年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択された「持続的発展に向けての社会関係資本の多様な構築：東アジアのコミュニティ、セキュリティ、市民文化の観点から」を含め、稼働する6研究拠点のプロジェクトに対する支援を行うとともに、文部科学省等の新たな研究プロジェクトの採択に向け、情報収集及び支援体制の強化を図る。

(2) 「向井信夫文庫」の設置

専修大学図書館は、平成21年度に購入した故向井信夫氏旧蔵の江戸期和本コレクション（約4,000作）と、既に寄贈を受けている江戸期文芸関係の図書（約4,000冊）を整理、蔵書検索システムへの公開を進め、さらに、「向井信夫文庫」として図書館内個人文庫に指定する。

5. 国際交流に関すること

中期留学プログラムの新規コース設置準備

専修大学は、中期留学プログラムの充実を図るため、英語コースの派遣先を拡充し、また、ドイツ語、コリア語及びスペイン語についてもコースを新設する。新規コースについては、平成22年度に募集を開始し、平成23年度での学生派遣を目標とする。

【石巻専修大学】

1. 教育改革に関すること

(1) 初年次教育の充実

石巻専修大学は、1年次の必修科目として開講している「フレッシュマンセミナー（基礎ゼミナール）」の内容充実に努める。本科目は、学習支援と学生生活支援の2プログラムにより構成され、大学への適応支援とキャリア教育を包含した内容となっている。

(2) 教育の質保証に向けた取り組み

石巻専修大学は、教育内容や方法について、各学部等が設定したカリキュラムポリシー及びディプロマポリシーとの整合性を高めるため、各段階（年次）における教育改善を推進するとともに、GPA及び学部間相互履修制度の導入に向けた検討を行う。

(3) 経営学部コースの充実

石巻専修大学は、経営学部国際経営・観光コースの観光系分野について、地域における観光関連教育の充実を図る。

2. 研究に関すること

(1) 研究センターの事業推進

石巻専修大学は、平成21年度に開設した「共創研究センター」における調査研究事業を推進し、地域課題等の解決に資する。また、大学開放センターと連携して、青少年、市民及び産業界向けの講座や講習会を開催する等、地域人材育成事業を展開する。

(2) 公的研究費の適正使用の徹底

石巻専修大学は、研究機関における公的研究費の管理・監査について、平成22年度から施行する学内規程に基づき、適正使用の徹底を図る。

3. 国際交流に関すること

石巻専修大学は、国際交流協定校のひとつである中国「温州大学」との学生間相互交流を中心に、国際交流活動を促進する。

【専修大学北海道短期大学】

1. 教育改革及び研究に関すること

(1) 専大ファームの充実について

専修大学北海道短期大学は、平成21年6月にJAS法に基づき「有機農産物生産行程管理者」に認定された専大ファームにおいて、新たな製品開発に取り組むとともに、農業活動を通じた教育の充実を図る。

(2) 教育用コンピュータシステムの利用促進

専修大学北海道短期大学は、教育効果の向上、及びCADや情報処理関連の資格取得支援強化を図るために、刷新した教育用コンピュータシステムの活用を徹底化する。

II 教育研究環境の整備

【専修大学】

1. 教育研究用コンピュータシステムの更新

専修大学情報科学センターは、平成22年4月から新教育・研究用コンピュータシステムを稼働させる。新システムは、最新のICT技術を取り込み、省電力・低発熱型機器の導入等により、グリーンIT化も実現する高性能かつ大規模なシステムである。

2. Web履修登録システム及び学内統合認証システムの更新

専修大学事務計算センターは、現行のWeb履修登録システムが契約満了になることに伴い、全面的なサービス向上を図るべく、システム開発を行う。今回の更新では、利用者サービスの向上のみならず、カリキュラム情報等の二重管理を排し、事務処理の効率化も実現させる。また、Web履修登録システムの契約に含まれている学内統合認証システムについても、独立したシステムとして更新し、平成22年8月から稼働させる。

3. 国際研修館建替えの検討

専修大学は、国際研修館の老朽化に伴い、同施設の建替えについて検討を進める。基本設計にあたっては、建築敷地の厳選に努めるとともに、客員教授等を受け入れるための宿泊機能、及び本学学生と協定校等からの留学生との交流を促進する混住型の施設を考えたい。

4. キャンパス将来構想の検討

専修大学は、神田及び生田に係る総合的なキャンパス構想について、魅力あるキャンパス作りに向けた検討を深化させる。平成22年度は、現状を基底にした試案について、多面的に分析、検証を行い、長期的展望に立ったキャンパス構想の作成へと繋げていく。

【石巻専修大学】

1. 教育研究用コンピュータシステムの更新

石巻専修大学は、平成22年4月から新教育・研究用コンピュータシステムを稼働させる。新システムは、環境・セキュリティ・学習支援等に優れた機能を有するとともに、3次元プリンタを備え、インターネット環境も高速化するため、利用者の利便性は大きく向上する。

III 学生支援の充実

【専修大学】

1. 学生相談室の充実

専修大学は、学生相談室利用者が年々増加する現状を鑑み、機能・環境面での充実を図るべく、生田キャンパス学生相談室をグリーントップ地下1階に移転させ、開設する。

2. 資格取得支援講座の強化

専修大学は、資格取得支援講座（法律総合講座、公務員試験講座、会計士講座）について、受講する1年次生が夏期休暇において集中的に学習に取り組めるよう、合宿またはコースの導入を企画する。また、個別指導（面談）及び教材開発も継続して強化に努め、受講生の最終目標達成をサポートする。

3. 就職支援の強化

専修大学は、就職部が申請した「就職活動に負けない自分づくりを目指した就職支援の強化」が、平成21年度文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムに採択された。平成22年度は、就職支援体制の更なる強化を図るべく、就職活動最盛期において相談員を拡充させ、従前から注力する「個別就職相談」を増強させる。また、進路決定への実践的支援施策として、学内企業説明会や模擬面接講座の充実化、公務員志望者に対する面接指導の強化等に取り組む。

【石巻専修大学】

1. 自宅通学支援バスの充実強化

石巻専修大学は、平成21年度に自宅通学支援バスの路線拡張を図った結果、良好な利用実績を得ることができた。平成22年度はさらに、JR北上駅・石巻専修大学間の支援バスを運行し、自宅通学圏を拡大させる。

2. 会計専門職養成の強化

石巻専修大学は、平成21年度に開設し、「日商簿記検定試験」の各級合格を目指す会計専門職養成のための講座（税理士等会計専門職養成講座）を継続実施し、学生の上位級合格を支援する。

3. 就職活動支援の強化

石巻専修大学は、キャリアガイダンス(企業別相談会)の拡充、首都圏で開催される合同企業説明会参加のためのバスツアー実施、保護者向け就職ガイドブックの作成等、進路支援を強化させる。併せて、正課授業との連携により、キャリア教育の充実を図る。

IV 社会地域貢献の推進

【専修大学】

1. KSコミュニティ・ビジネス・アカデミーの実施

専修大学は、平成20年度の文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に、3年間の予定で採択された「KSコミュニティ・ビジネス・アカデミー」を継続開講する。なお、本アカデミーの修了者は、第二の人生における活躍の場を求め、精力的に職業獲得や起業創造に取り組んでいる。

2. 地方自治体との連携促進

(1) KSパートナーシップ・プログラムや多摩区・3大学連携協議会の推進

専修大学は、川崎市〔専修大学と川崎市との連携・協力に関する基本協定締結（KSパートナーシップ・プログラム）〕、川崎市多摩区（多摩区・3大学連携協議会）と定期的に協議の機会を設け、社会貢献活動の推進を図る。

(2) 「開かれた大学」の推進

専修大学は、サテライトキャンパスをはじめとする大学施設を積極開放するべく、地元自治体や公共機関の協力を得ながら、施設利用の広報、周知に努める。

3. 高大連携プログラムの充実

専修大学は、「高大連携聴講生の受け入れ」、「教科研修生の派遣」、「文学部英語英米文学科公開セミナーの開催」、「一日体験入学」、「高校教員研修会への教員派遣」、「講座への教員派遣」など、協定校の要望に応えながら、連携プログラムの拡充に努める。

4. SI Librettoの刊行

専修大学は、創立130年を契機として、「社会知性の開発」の一端を担うSI Librettoを創刊した。平成22年度においても、同シリーズの刊行を推進し、本学の教育力・研究力をもとにした「知の発信」を積極的に行う。

5. 公開講座の充実

専修大学は、地域貢献及び地域交流の一環として、有する知的財産を積極的に地域・社会へ還元するために、各種公開講座、講演会、シンポジウム等を充実させ、開催する。

6. 専修大学カップの開催

専修大学は、地域（神奈川県）の子供たちの健全育成支援を目的として、平成18年から神奈川県野球連盟と本学の主催により、「専修大学カップー神奈川県学童軟式野球選手権大会ー」を開催しているが、学内外から評価が高い本企画を、平成22年度においても実施する。

7. ワンダーチームメイトの強化

専修大学体育会は、地域貢献活動の一環として、毎年、近隣住民を対象としたスポーツ教室を開催している。平成22年度は、川崎市教育委員会や多摩区役所等との連携を深め、情報宣伝活動の充実に努める。

【石巻専修大学】

1. 産学連携の推進

石巻専修大学は、産学連携について大学開放センター、自動車工学センター及び共創研究センターを基軸とした体制で臨む。平成22年度は、石巻地域産学官グループ交流会の下にある自動車産業集積部会（部会長：理工学部教授 山本憲一）のIMプロジェクト(*)を中心に、積極的な推進を図る。
(*) IMプロジェクト：自動車部品等の新製品開発・研究を目指すプロジェクト。

2. 高大連携の強化

石巻専修大学は、従前から取り組む出前授業や高大接続研究事業に加え、平成21年度から実施した進学校対象の特別授業（特定学年の全員を対象とする模擬授業）や専修大学北上高等学校を対象とした大学見学会など、個々の高等学校の要望や事情にあわせた高大連携事業を積極的に展開させる。

【専修大学北海道短期大学】

1. 専修大学ハスカッププロジェクトの充実

専修大学北海道短期大学は、「ハスカップネットワーク美唄」との連携により発足した「専修大学ハスカッププロジェクト」を推進する。平成21年度に定植したハスカップ苗木の品種改良、栽培、収穫期の研究を進め、加えて、生育農家の調査、関連商品の調査、ハンドブックの作成に携わる。

2. 市民公開講座の実施

専修大学北海道短期大学は、地域住民の学習ニーズを十分に精査し、特色ある講座を開講する。

3. 高大連携の強化

専修大学北海道短期大学は、教育交流に関する協定を締結する岩見沢農業高等学校及び美唄工業高等学校との交流を積極的に推進するほか、美唄高等学校及び奈井江商業高等学校との協定締結を目指す。また、出前授業、実験・実習の受け入れ、課外活動の交流、教員間の研究活動等にも努める。

V 経営基盤の強化

【学校法人】

1. 教育研究振興協力資金の募集

学校法人専修大学は、①教育研究の充実、②教育施設設備の整備拡充、③奨学金制度の充実、④学生スポーツ活動の振興などを目的とした、「教育研究振興協力資金」の募集を平成22年4月から平成25年3月まで行う。

2. 外部資金の確保

学校法人専修大学は、文部科学省等から交付される補助金について、関係所管を対象とする説明会などを実施し、申請の促進及び補助金の増収を図る。

3. 事務組織の機能強化

学校法人専修大学は、事務組織内における業務内容の徹底した点検を行い、業務の効率化、最適化を図り、組織の機能強化を追求する。

【三大学】

1. 学生募集力の強化

三大学は、各大学の総合力を示す一つの指標となる入学志願者数の向上に向け、全学協力体制のもと、積極的な学生募集広報活動を展開する。





Devoted to the Development
of Socio-Intelligence
SENSHU
UNIVERSITY